

学校だより

No. 13 令和7年9月19日

有田小 HP の



とうざん

QR コードは

こちらです。



有田町立有田小学校 校長 山口 英一

校長室への突然の来室で…

9月上旬の昼休み、「学校だより No.12」の最終校正をしていたところ、コンコンコンと校長室のドアをノックする音がしました。「はい」と返事をする、「校長先生に話をしに来ました」と、3人の女の子たちが立っています。「どうぞ～」と声をかけると、神妙な顔つきをして校長室へ入ってきました。何かトラブルでもあったのかなと心配していると、「校長先生、『学校のかくれんぼ』って知っていますか？」との質問がありました。これは、おそらく『学校のかくれんぼ』だろうとピンときたのですが、あえて「知ってるよ」とだけ答えました。すると続けて「『学校のかくれんぼ』がしたいです」という、予想通りの展開でした。

昨年度も、本校で子どもたち主催の『学校のかくれんぼ』が実施されていたことを職員から聞きました。また、5月3日(土)に佐賀市の小学校の様子がテレビ放送されたことも影響しているのかなと思います。せっかく子どもたちが「やってみたい」と勇気を振り絞って(笑)、校長室を訪ねてきてくれたのですから、無下に反対したくはありません。そこで、「どうやったらできると思う？」と投げかけてみると、「全校遊びでやってみたら…」とか、「代表委員会の議題にしたら…」とのアイデアが出てきました。「でもね、危なくないように、隠れる範囲や行ってはいけない場所など、ルール作りも大切だよ」と付け加えました。子どもたちは少し考えて「まずは、学級でやってみよう」と言ってきました。「それはいいかもね！ まず、クラスでやってみて問題点があったら、修正して学校全体に広めてみたら？」と言うと、子どもたちはうなずいていました。

子どもたちからのこの提案に、うれしい気持ちになりました。本校に赴任してから、子どもたちに伝えている「チャレンジしよう！」の第一歩を踏み出してくれていると感じたからです(ひょっとしたら、校長先生にお願いしたら何とかしてくれるかもとの思いがあったのかもしれません)。この先、自分たちでしっかり考えて、悩んで、友達と協力して……、少しずつ実現に向けて進んでいってほしいと思っています。本校は各学年1クラスしかありませんので、今年度中に解決しなければ、来年度に持ち越してもいいくらいの長い目で見守っていきたいと思います。実際に『学校のかくれんぼ』ができるかどうかは別にしても、きっとこの経験は子どもたちの財産になるはずですよ。

「ダメ。ゼッタイ。」… 薬物乱用防止教室(6年)

11日(木)、6年生を対象に「薬物乱用防止教室」を実施しました。今年度も、古川さんをはじめ、ライオンズクラブ等より講師の先生をお招きし、薬物の危険性や正しい知識を身につけることの大切さについて話をしてくださりました。講師の先生からは、「薬物は一度使ってしまうと自分ではやめられなくなり、心や体、そして人生を大きく壊してしまうものだ」ということを、映像や事例を交えてわかりやすく教えていただきました。また、友達などから誘われたときの断り方や、勇気をもって助けを求めることの大切さについても話があり、子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていました。授業後の振り返りでは、「薬物の怖さがよくわかった」「誘われても絶対に断る」といった感想が見られ、意識の高まりが感じられました。これからも、自分の命と健康を守るために、正しい判断力や断る勇気を育てていきたいと思っています。



わたしたちのくらしとまちではたらく人びと … 工場見学(3年)

3年生は社会科で、「工場ではたらく人びとの仕事」の学習をしています。自分たちが生活している町の工場見学をするということで、漬物製造卸の会社である前田食品工業さんに見学に行きました。製造方法の話を聞いたり、実際に作られているところを見たりしました。食品を取り扱っているので、衛生面にはとても気をつけられていて、工場がクリーンルーム化されていたり、食品衛生白衣を着たりして仕事をされていました(写真で分かるように、子どもたちも衛生帽をかぶって見学しています)。



子どもたちは課題意識をもって見学することができたようです。今後、自分たちのくらしとのつながりについて、考えを深めてくれることだと思います。

お米の成長は … 岳の棚田見学(5年)



12日(金)、5年生が岳の棚田の見学に行きました。6月に田植え体験をした棚田で、稲がどのように育っているかを観察するための見学でした。到着すると、棚田は青々とした稲でいっぱい、6月に植えた小さな苗が枯れていないか心配していた子どもたちは、大きく育っている様子を見て安心していました。棚田保存会の方から、水不足が心配されたことや稗などの草取りをしていたことの話が聞かれました。自然の中でお米を育てることのたいへんさにふれ、子どもたちは真剣に話を聞いていました。次は稲刈り体験が予定されています。実際に自分の手で収穫することで、さらに多くの学びが得られることと思います。

大きな肖像画

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、校長室には本校初代校長である江越禮太先生の肖像画が飾られています。江越校長は、文政10年(1827年)に小城に生まれ、明治5年「学制」が公布され、白川小学校が開設されると初代校長に迎えられ、明治24年まで校長を務められました。私が小学生のときにも、何度かこの肖像画を目にしたことはありました。今は、毎日、私の仕事ぶりを温かく見守ってくださっているように感じます。

8月18日、曾孫にあたる江越誠様が学校を訪ねてこられました。創立150周年で来校されたときの思い出話や近況など、1時間弱の短い時間でしたが、楽しくお話をすることができました。もちろん、肖像画の話もしました。

さて、この肖像画ですが、明治31年(1898年)に江越先生の教えを受けた白川小学校の教員たちが、江越校長の偉大さをたたえて校内に掲示するために、募金を呼びかけて制作したとのこと。描いたのは、福井県出身の画家、波々伯部繁(ほうかべしげる)という方です。どのような経緯で、この肖像画を描くことになったのかは、よく分かっていないそうです。

先日、波々伯部金洲(繁)特別展を開催するにあたり、福井市立郷土歴史博物館から、肖像画の調査に来られました。金洲(1862～1930年)は、明治から大正期に東京で活躍された、三越の最初期の美人画ポスターの原画作者だそうです。学芸員の方が実際に肖像画を見られて、「こんなに大きいものとは…」と言われていました。

時代を超えて、地域を超えて、このようなつながりがあるということに、歴史の重みと人の縁の不思議さを感じました。

